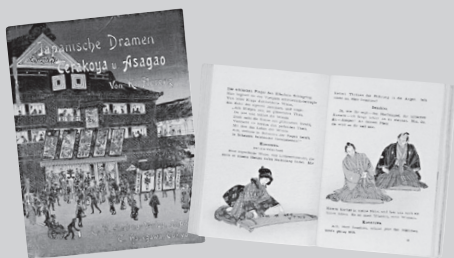


図書館利用案内

- 7月のピックアップコーナー
「ウォルト・ディズニー」
————— 栄 咲子 26
- 図書館に関する素朴な疑問コーナー
————— 27
- おこしやす、図書館へ
「言語学、はじめの一步 (16)」
————— 入学 直哉、藤井 達也 28
- マガジンラック (44)
「知っていますか? 図書館の雑誌」
————— 栄 咲子 29
- シリーズパソコン周辺機器 ㊹
「JavaScript」————— 宮杉 浩 30
- ## 図書館員の文献紹介
- 名作再読、拾い読み (24)
『よみがえった改心』
(“A retrieved reformation”)
————— 小澤 文彦 31
- 日本の歴史35
『江戸の読書会：会読の思想史』
————— 稲垣 宏行 32
- 中世文学を彩った人たち (11)
後深草院二条 (続7) [四条隆親編]
～日記文学『とはずがたり』の作者～
————— 岡崎 嘉彦 33
- Book Review Corner ————— 34・35
- ライブラリー・カレンダー 2013 (7月～9月)
————— 36

● 本誌の表紙に使われた貴重書



Florenz, Karl
Japanische Dramen : Terakoya und Asagao
Tokyo, 1900

カール・フローレンツ著
『日本の芝居 寺子屋と朝顔』

本書は明治時代に流行した二つの歌舞伎演目を纏めたものである。「寺子屋」はすがわらでんじゆてならいかのみ『菅原伝授手習鑑』の寺子屋の段で、菅原道真の弟子や家臣らの忠義を描いた悲劇である。道真の家臣の子でありながら、道真を失脚させた政敵藤原時平に仕える松王みじわらとまきむらは、山里の寺子屋に匿われていた道真の子秀才しゅうさいの首検めを命じられ、事前に自分の実子小太郎を寺子屋に入れ、身代わりに小太郎の首を打たせて道真への忠義を果たした。武士の悲劇的英雄性が忠実に訳されている。

「朝顔」ではしょうつしあさがおほなし『生写朝顔話』(通称「朝顔日記」)の宿屋の段から大井川の段までを訳し、恋仲になるも互いに国許へ帰る用事で別れた武家の娘深雪と阿曾次郎が何度も行き違うさまを女の情念と人の縁を軸に描いている。目を泣き潰して醫女となった朝顔(深雪)は相手が次郎とは知らず客の前で自分の身の上話をし、その場で名乗れず去って行った次郎を追って川留めの大井川に入水しようとするが、宿屋の主人に助けられ視力を取り戻した。

フローレンツは二作品のそれぞれ有名な段を訳し、それまでのあらすじや特殊な名詞の補足等を簡潔に纏め、前置きとして解説している。

原寸 19.6×14.9cm

『文明開化期のちりめん本と浮世絵』
(2007年本学図書館刊行) より抜粋